

2021 年 10 月 7 日

DRONE FUND

## DRONE FUND、海洋ごみ削減を目指す「プロジェクト・イッカク」に参画 ドローンと AI による「海洋ごみ解析サービス」の開発進捗を公開

DRONE FUND(本社:東京都渋谷区、代表:千葉 功太郎、大前 創希)は、2019 年より参画する海洋ごみ削減共同研究プロジェクト「Debris Watchers」の構成メンバーとして、山形県鶴岡市の海岸において、ドローンと AI を活用した海洋ごみ解析の実証実験を行い、有効性を確認いたしました。

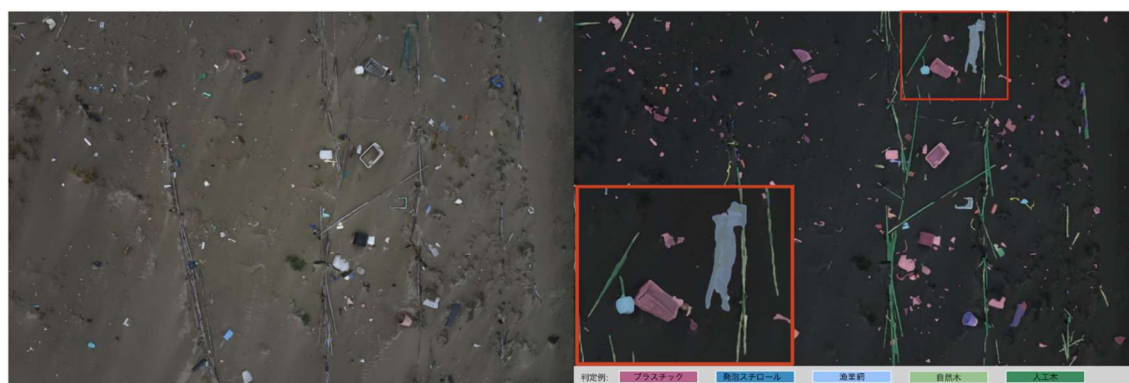


なおこの取り組みは、海洋ごみ削減とビジネス創出を目指す「プロジェクト・イッカク」の一環で実施しております。プロジェクト・イッカクの採択を受けている Debris Watchers は、6 つの企業、2 つの大学で構成され、人工衛星・ドローン・地上型設置デバイス・AI の連携による海岸漂着ごみ検知システムを開発しております。

## ▼実証実験の概要

|              |                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時           | 2021 年 10 月 7 日(木)                                                                                                                                                                                |
| 場所           | 山形県鶴岡市の海岸                                                                                                                                                                                         |
| 目的           | ドローンで砂浜海岸を上空から撮影した画像を AI で解析し、海洋ごみ判別技術の実用性を検証すること                                                                                                                                                 |
| 実証実験の<br>構成員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>実施責任者: 井上翔介(株式会社 ACSL、以下 ACSL)</li> <li>ドローン空撮: ACSL、株式会社ドローンクリエイト</li> <li>AI による画像解析: 株式会社 Ridge-i</li> <li>コーディネート・広報: 日本ユニシス株式会社、DRONE FUND</li> </ul> |
| 備考           | 新型コロナウイルスの感染防止策として、主催者・参加者ともに下記 4 点を徹底いたしました——(1)マスクの着用、(2)屋内施設入口等での非接触検温・手指消毒の実施、(3)屋内施設での距離を取った座席配置、(4)屋内施設内の換気                                                                                 |

海岸の撮像は、ACSL が開発する、高信頼設計の国産ドローン「PF2」を用いて実施しました。ドローン撮影画像からの海洋ごみの解析と海洋ごみ調査レポート作成は、株式会社 Ridge-i が開発する海洋ごみ解析 AI アプリケーションを用いました。海岸地形として分類される岩石海岸（2020 年長崎県対馬市）と砂浜海岸（2021 年山形県鶴岡市）の双方に対応した海洋ごみ解析 AI を開発し、当該の海岸で実際にごみ判別できることを確認いたしました。（下記画像参照）。



DRONE FUND は、今後も Debris Watchers／プロジェクト・イッカクでの活動などを通じて、海洋ごみをはじめとする社会問題に対し、ドローン・エアモビリティをはじめとする空のテクノロジーがどのように貢献できるか、それをどうビジネスにつなげていけるのかについて、その可能性の開拓に取り組んでまいります。

#### ■プロジェクト・イッカク 概要

公益財団法人日本財団、一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構（JASTO）、株式会社リバネスが共同実施する「プロジェクト・イッカク」は、海洋ごみ削減とビジネス創出を同時に実現する事業モデル構築を目指し、ベンチャー企業を中心とした超異分野チームを組成して推進しています。2019 年より 3 つのチームが採択されています。

- ウェブサイト: <https://ikkaku.lne.st/>

#### ■Debris Watchers 概要

衛星とドローン、そして地上の定点観測装置を組み合わせ、長期・網羅的な観測及び詳細分析が可能な海洋ごみ診断システムを開発することにより、漂着ごみの削減と地域課題の解消、そして新たなビジネスの創出を目指します。ベンチャーを中心に 6 つの企業、2 つの大学で構成されています。

- ウェブサイト: <https://coastal-cleanup-satellite-drone.com/>
- 本発表に関するプレスリリース: <https://coastal-cleanup-satellite-drone.com/news/211007/>

#### ■DRONE FUND 概要

DRONE FUND は、「ドローン・エアモビリティ前提社会」を目指し、ドローン・エアモビリティ関連のスタートアップに特化したベンチャーキャピタルです。1 号および 2 号ファンドを通じて、国内外の合計 40 社以上のポートフォリオを形成しています。3 号ファンドでは、ドローン・エアモビリティおよびその社会実装に資するテクノロジーへの投資活動を幅広く展開してまいります。

- 正式名称: DRONE FUND 3 号投資事業有限責任組合
- 運営会社: DRONE FUND 株式会社
- 代表パートナー: 千葉 功太郎、大前 創希
- 所在地: 東京都渋谷区恵比寿三丁目 3 番 6 号

- 設立：2020 年 5 月
- 事業内容：ドローン・エアモビリティ関連への投資及び協業支援
- ウェブサイト：<http://dronefund.vc>

【本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先】

- DRONE FUND 広報担当：pr@dronefund.vc